

# 昭和の汽車旅と愛岐トンネル群

## — 産業遺産を未来に —

### ■ 普通列車は汽車の旅

昭和30年代になると、電車や気動車の導入によって優等列車の無煙化が広まったが、名古屋付近では東海道線を除けば普通列車の多くは蒸気機関車が牽引していた。中央本線名古屋付近も普通列車は一部の列車を除き



デッキの扉を開けたまま走行 関西線永和付近 1969年

蒸気機関車が牽引していた。当時の「旧型客車」は手動ドアで、ドアの開いたデッキに

乗車することもあった。トンネルに入ると窓を閉め、それでも隙間から煙が車内に入ってきた。



古虎溪一定光寺間、4号トンネルに向かう列車 1964年  
撮影：加藤弘行

### ■ 廃線そして再生へ

1966年、名古屋～瑞浪間の複線電化に伴って、定光寺～多治見間は新線に付け替えられ従来の旧線は廃線となった。

2006年、地元の人が草木に覆われた旧線跡を探索すると煉瓦造のトンネルを再発見した。この時から愛岐トンネル群の活動が始まった。2009年にNPO法人「愛岐トンネル群保存再生委員会」を設立。主な活動は、①廃線跡を歩けるように整備



3号トンネル（玉野第三隧道）



4号トンネル（玉野第四隧道）

2024年11月撮影

しトンネル群の構造検査と安全を確認、②年に2回の特別公開などの企画でトンネル群を市民へアピール、③鉄道遺産を保存活用している他団体へ研修旅行、④活動を記録し、その成果をホームページや活動レポートにまとめること。これらの活動を通して産業遺産「愛岐トンネル群」を次の世代に引き継ぐことを目指している。

### ■ 愛岐トンネル群の産業遺産

トンネル群の産業遺産は4号～6号のトンネル4基、橋梁・開橋(3箇所)・暗橋(暗渠)で構成され、その他信号機の台座、木柱の根元などが存在している。この内、3号トンネル、4号トンネルと暗渠が2016年に国の登録有形文化財に登録された。



暗渠（笠石洞暗橋）

2014年11月撮影

### ■ 愛岐トンネル群保存再生委員会会員と今までのイベントなど

愛岐トンネル群保存再生委員会は鉄道廃線跡に関わる団体だが、いわゆる鉄チャンは少ない。多彩な趣味、職歴の人たちの集まりである。今までに赤レンガ刻印探し、レンガ作り教室、赤レンガシンポジウム、トンネルの中で金冠日食観望会、森のピアホール、全国トンネル(廃線跡活用)サミットなどを開催し、汽車土瓶、絵葉書などグッズ作成している。

### ■ 2024年秋の特別公開から未来へ

今秋の特別公開では、1日に8,598人と最多の入場者があった。子どもが楽しめる仕掛けも増え、全世代の人々が来場。マスコミにも取り上げられてトンネル群の知名度は上がった。次世代に引き継ぐには未だ課題も多い。2025年春の特別公開は5月2日～6日の予定。午前中の来場がお勧めである。



写真は2024年第33回秋の特別公開の様子

特記以外は全て筆者撮影

(山田 貢)



愛岐トンネル群  
保存再生委員会HP